

中国ぶどう市況



中国産ぶどう缶詰加工用品種は、イシハラセンチニア(日本では、巨峰として知られている)であり、主産地は安徽省と山東省です。

安徽省では、干ばつの影響を受け、山東省では4月の雪害及び7月の雨により、収穫量は対例年50%以上の減産となりました。また、白桃同様に生鮮向けの出荷が好調である状況により、加工用の原料価格は高騰しています。品質についても、加工用に回ってくる原料は柔らかくて小ぶりのものも多く、水分も多いため、歩留まりが非常に悪い状況です。また、ぶどう缶詰の製造は皮剥き、種取りと全て手作業で行なわれます。中国では、経済発展により、年々作業員の確保が困難になっており、中国国内のぶどう缶詰パッカーは毎年減少しています。ぶどう缶詰輸出工場について、浙江省では、昨年5工場ありましたが、今期は1工場のみとなり、山東省でも日本向け缶詰は限られた工場でのみ生産されています。

